

令和3年度 学校経営基本構想

北海道檜山北高等学校

校訓「錬心大望」

学校の現状

- 檜山北部地域の中学校卒業生数の減少
- 地元進学率：70%を下回る（2間口の維持）
- 環境の変化が少ない（顔ぶれが変わらない）
- 学習能力の幅が広い（国公立から就職まで）
- 多種多様な科目への対応（総合学科維持）
- 家庭学習時間の不足（学習状況調査より）
- ICT活用のための基盤整備不足
- 保護者負担の増加（資格取得・模試費用等）

学校の課題

- 「目指す学校像」・「目指す生徒像」の実現
- 新学習指導要領による教育課程の編成・実施
- 地域と連携したキャリア教育の展開
- 将来の担い手育成へ向けた生徒の地域理解
- 教職員の資質能力の向上（教師力の向上）
- ICT活用のための基盤整備と実施
- 特別支援等が必要な生徒への対応
- 本校教育活動の地域への積極的な情報発信

目指す学校像

- 地域の担い手育成高校

目指す生徒像

- 「志」を持ち、「生きる力」を身につけた生徒

本校への期待

- 生徒が地域で活動する姿
- 進路目標の達成・資格取得
- 地域異校種間との連携（キャリア教育）
- 特色ある総合学科の維持

スローガン

「One-up」

人間力や進路等を始めとする「目標」を高校入学時より、ひとつ上を目指す気持ちを持つ（育てる）

学校教育目標

- 1 知性と創造力を磨き、自ら実践する人間
 - 2 人と自然を愛する、心豊かな人間
 - 3 心身を鍛え、未来を拓く人間
- 地域社会になくてはならない魅力ある学校づくりと更なる躍進を願い、教育目標に掲げた人間像を目指し、「錬心大望」の校訓の達成に努力する人材を育成する

学校経営方針

- ① 関係機関・異校種との連携を深化させ、地域の信頼、期待に応える教育実践を積極的に紹介し、一番の選択肢となり得る持続可能な学校づくりを推進する。
- ② ICTの活用と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善により、有機的に家庭学習へ接続し、知識・技能を定着させ、確かな学力を身に付けさせる。
- ③ 情報共有による組織、チームでの生徒支援により、自他の人権を尊重できる生徒を育成する。また、地域の担い手として、地域の課題解決に向けて具体的な提言、行動のできる生徒を育成する。
- ④ キャリア教育を推進し、生徒一人一人が「One-up」を目指し、進路目標達成に向けて、「志」を育み、必要な「生きる力」を習得する方法、能力を育成する。
- ⑤ 地域関係機関との連携、気づきからの情報共有、校内研修等により、個に応じた特別支援教育を充実、推進する。
- ⑥ 法令、服務規律を遵守し、地域の信頼に答える資質向上を図るとともに、学校における働き方改革「北海道アクション・プラン」を推進する。

学校運営

- 地域に信頼され必要とされる学校「情報発信」
→教職員・生徒の地域行事等への参加、教育活動の積極的な発信
- キャリア教育等を通じた地域との連携および地域理解「地域連携」
→地域からの支援（地域資源・人材の活用等）、地域への提言
- 組織運営「チーム北高」
→分掌主導による統一した指導、カリキュラム・マネジメントの推進
- 教職員の資質能力向上「教師力」→研修への積極的な出席、還元
- 地域異校種との連携「理解・協力」
→校長会・教頭会等を通じての情報交換・教員交流、キャリア教育・部活動・生徒会・ボランティア等での連携

教育活動

- 学習指導「能動的な学び」
→ICTの活用と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善
- 生徒指導「豊かな心」
→日々の学校生活を豊かで充実したものにする
→「情報連携」「行動連携」「役割連携」の推進
- キャリア・進路指導「One-up」
→社会的・職業的自立、多様な進路希望の自己実現、資格取得
- 健康・安全指導「安全・安心」
→心と体の健康、自他の尊重、命を大切にする態度、よりよい学習環境と生活環境

令和3年度の重点課題

- 『連携』（キーワード）
…個々の教職員の動きが共通の目的に向かって繋がる
…地域連携の深化（地域資源・人材の活用の推進）
…異校種間連携（キャリア教育、生徒会活動等）
- 新学習指導要領へのスムーズな移行
- GIGAスクール構想への対応
（クラウド、ICT活用による授業改善、遠隔授業）
- 業務内容平準化の推進（抱え込まない・込ませない）
- 教育活動の地域への積極的な情報発信